

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和7年度学校評価 計画

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

1 前年度 評価結果の概要	・学力向上については、校内研究を通して教職員の意識、実践が高まり、漢字力をはじめとした学力定着につなげることができた。次年度は、更に授業改善を行い、学力向上を目指したい。 ・支援が必要な児童に対して、教育相談体制の活用、関係機関との連携を図ることで、組織的な対応を行うことができた。今後、支援が必要な児童に対して早期対応ができるように、校内支援体制の整備、関係機関との連携強化を図りたい。 ・教職員の業務改善に向けて、校時表の改善や連絡事項のWEB管理などを行い、業務改善を進めることができた。次年度は、更に授業時数の改善などを行うことで、業務改善を進めたい。
------------------	--

2 学校教育目標	心と知恵と技を研ぐ上峰っ子の育成 ～ふるさとを愛し、夢に向かって輝くために～
----------	---

3 本年度の重点目標	①児童の十分な学力定着に向けて、校内研究の新たな取組視点を共通理解・共通実践し、日々の授業において授業改善を行う。 ②「いじめの早期発見・早期対応」に向けて、再度いじめの定義を全職員で共通理解し、アンケート・児童観察等をもとに積極的認知・指導に取り組む。「不登校児童」については、学校・家庭・関係機関の連携を軸に支援を進めていく。 ③「気になる子、配慮を要する子」に関する教職員の専門性を高め、チーム上峰として職員全体で共通理解した適切な支援へと繋げる。
------------	---

4 重点取組内容・成果指標				中間評価		5 最終評価				主な担当者	
(1)共通評価項目											
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価			
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言		
●学力の向上	○全職員による共通理解と共通実践 ・校内研とも関連をつけながら、子供の主体性向上と教師力向上に取り組む。	○「もっと知りたい自分の考えを広げたい」の質問に対して、肯定的な回答をする児童の割合85%以上。 ○「授業づくりのステップ1・2・3」や「授業力向上シート」を活用し、教師力を向上させることができた教師の割合85%以上。	・校内研究や校内研修で実践発表や情報交換等を行い、共有できる指導法等を増やす。 ・「授業づくりのステップ1. 2. 3」、「授業力向上シート」を参考にし、全職員で共通理解を図りながら実践できるようにする。	・		・		・	知恵をとぐ部(武廣)		
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○アンケート「道徳の授業を年間計画を基に意図的に行って、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度の育成に取り組んでいる」に肯定的な回答をした教員の割合80%以上。	・年間計画を基に道徳の授業を意図的に仕組む。 ・保護者参加型の道徳の授業を通して家庭との連携を図る。 ・目指す子ども像「ためともの心」や「ありがとうの木」を通して豊かな心を育む。	・		・		・	心をとぐ部(北村)		
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○アンケート「困ったことがあったとき、話を聞いてくれる先生がいる」に肯定的な回答をした児童の割合80%以上。	・SC、SSWとの連携を図り、学年を中心に組織的に指導を行う。 ・いじめへの対応のために、ハイパーQU研修やSC研修、事例研修会を行う。 ・いじめの早期発見、対応についての取り組み等を保護者に周知する。	・		・		・	心をとぐ部(北村・八谷)		
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒80%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒80%以上	・子供の行動を褒めたり、価値づけたりできるように、「褒め言葉一覧」を作成し、職員に配布する。 ・キャリアパスポートの取り組みの中で、年度の初めに目標を立てる。 ・6年生は夢未来プロジェクトと称して、自分の将来の夢を探し、その夢に向けて自分が取り組むべき行動目標を立てさせる。(マンドラチャート)	・		・		・	技をとぐ部(富永)		
	○人権・同和教育の推進	○道徳の学習や人権集会を通して、アンケート「人を思いやることができるようになった」に肯定的な回答をした児童の割合80%以上。	・道徳の学習や年間4回の人権集会を通して、人権について考える機会をつくり、児童が相手の気持ちを考えて行動できるようにする。	・		・		・	心をとぐ部(北村・野中)		
●健康・体づくり	●運動習慣の改善や定着化	●授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上の児童生徒60%以上 ○アンケート「～大会・～記録会には、練習を頑張って取り組めたか」に、肯定的な回答をした児童の割合90%以上。	・業間休みや昼休みにおける外遊びの奨励、体育委員会の活動による取り組みの促進を図る。 ・体育大会・水泳記録会・縄跳び記録会などの行事を通して、運動への興味関心を高め、運動に親しませる。	・		・		・	心をとぐ部(牧山)		
	○望ましい生活習慣の形成	○アンケート「早寝早起き朝ごはんを毎日行う取り組み」に肯定的な回答をした児童の割合85%以上。	・睡眠、食生活等について、栄養教諭、養護教諭が担任と連携し授業での啓発を行う。 ・食育だより、保健だより、集会等を通して、「早寝早起き朝ごはん」の重要性を保護者、児童に呼びかけを行っていく。	・		・		・	心をとぐ部(石戸・林は)		
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限(月45時間)を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上	・会議回数を減らしたり、学年間で業務の効率化を進めたりすることで、時間外勤務を短縮し、繁忙期を除き、18:45までに施錠をする。 ・長期休業中の研修の日程や形態を工夫し、年次休暇の取得を奨励する。	・		・		・	学年主任会(教頭)		
	○業務改善・働き方改革の推進	○アンケート「自分の時間を確保し、心身の休養に充てることができた」に、肯定的な回答をした教員の割合80%以上。	・教材の共有化や生徒指導事案への対応などにチームで取り組み、業務改善・働き方改革につなげる。	・		・		・	学年主任会(教頭)		
●特別支援教育の充実	○教員の専門性と意識の向上	○アンケート「特別支援教育に関する知識や技能をより学ぶ必要がある」と積極的な回答をした教員の割合が90%以上。 ○アンケート「不登校、学力不振等で、特別支援CO、SC、SSW等の教育相談体制を活用したり、ケース会議を通して相談したり対応したりしている。」に、肯定的な回答をした教員の割合が80%以上。	・職員の特別支援教育に関するニーズを聞き取り、ニーズに見合う研修会を計画、実施する。 ・必要に応じてケース会議を実施し、支援が必要な児童の情報を共有し、全ての教員で組織的に対応する。	・		・		・	特別支援Co(大井、福島)		
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目											
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者	
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言		
○ICTを活用した個に応じた学びの充実	○ICT活用による学びの保障と個に応じた教育活動の実践	○アンケート「タブレットPCを活用し、自分にあった方法で学習に取り組むことができる。」に、肯定的な回答をした児童の割合85%以上。	・日々の授業や家庭学習等で1人1台端末を使った調べ学習・情報の共有・習熟学習等の機会を作るとともに学び方を指導する。	・		・		・	知恵をとぐ部(武廣・福田)		

●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志と誇りを高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	・ ・ ・
--------------------	-------------